

### 三 その他中立国との関係

#### 1 バチカン

500

昭和16年12月25日

在伊國堀切大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

バチカンへの外交使節派遣の有益性について

ローマ 12月25日後発

本省 12月26日前着

#### 第八三八號(至急、館長符號扱)

貴電第三三一八號及獨宛貴電第二六三七號ノ四ニ關シ

羅馬法皇廳ニ外交代表駐派ヲ御考慮中ナル趣寢ニ時宜ヲ得

タル御措置ト存セラル本件ハ對南米政策上必要ナルハ勿論

對歐洲「カトリック」諸國政策上重要ナル措置タルコト申

迄モナシ當館トシテハ法皇廳トノ直接接觸ハ當國政府トノ

關係上困難ナルノミナラス建前トシテ避ケ居ル次第ニシテ

從テ當方ヨリノ「ヴァテイカン」情報ハ遺憾乍ラ殆ト二番

手三番手ニシテ之ヲ當局者ヲ通シテ確ムルヲ得ス此ノ點ヨ

リスクモ使節常駐ハ「ヴァテイカン」情報蒐集上有效ナリ  
米國ハ元來法皇廳ト外交使節ノ交換ナキモ戰爭以來大統領  
ノ代表トシテ外交官ヲ駐派シ居ルニモ鑑ミ正式外交代表ノ  
駐派ハ勿論結構ナルモ右實現迄不取敢在歐外交官中ヨリ我  
政府代表トシテ特派相成ルコト此ノ際是非トモ必要ナリト  
存セラルニ付テハ右至急御詮議相成様致度シ  
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

501 昭和17年1月17日

在伊國堀切大使宛(電報)  
東郷外務大臣より

日本の外交使節派遣に關しバチカン側の意向

確認方訓令

本省 1月17日前7時50分發

#### 第一二號

諸般ノ事情ヲ考慮シ此ノ際羅馬法王廳ニ我方使節ヲ派遣ス  
ルコト適當ト認ムル處正式ニ外交使節ヲ交換スルカ爲ニハ  
我方國內手續其ノ他ノ關係ヨリ相當期間ノ準備ヲ要シ時期

### 三 その他中立国との関係

ヲ失スルノ惧レモアルニ付差當リ在歐外交官中ヨリ特派公使(大正八年勅令第六四號ニ基ク)ヲ任命シ「ヴァチカン」ニ出張駐在セシムルコトトシ又本邦ニ於ケル法王廳使節ノ地位ハ差當リ現狀ノ儘ト致度キ當方ノ希望ナリ就テハ右御含ノ上法王廳側ノ意向殊ニ我方使節ニ與ヘラルヘキ待遇等御確メ相成度ク併テ伊國政府ニモ我方ノ意嚮ヲ通報シ其ノ了解ヲ得置カレタシ尙從來法王廳トノ間ニ正式ニ大公使ヲ交換セス何レカカ一方的ニ使節ヲ派遣シ居ル國名及其ノ資格參考巡回電アリタシ

502 昭和17年1月20日 在伊国堀切大使より 東郷外務大臣宛(電報)

外交使節派遣につき伊国を通じバチカン側意  
向確認について

ローマ 1月20日後発  
本省 1月23日前着

第五七號(大至急)  
貴電第一二號ニ關シ

一、二十日安東ヲシテ「ブルナス」ニ對シ本件ニ關スル伊側ノ意嚮ヲ尋ネシメタル處「ブ」ハ本件ニ關シテハ二、三日前「インデルリー」大使ヨリモ同様ノ日本政府ノ希望ヲ申越シ來リ目下「バチカン」駐劄伊國大使ヲ通シ「バチカン」側ノ反應ヲ探リツタル次第ニシテ一兩日中ニハ其ノ結果ヲ御通報シ得ヘシト思考ス伊國政府トシテハ素ヨリ何等支障ナシ尙法王廳ト日本大使館側トノ會見竝ニ特派使節ノ待遇問題ニ關シテハ「アツトリコ」大使ヨリ何等答アル迄待タル方宜シカルヘシ何レ待遇トンテハ米ノ先例ニ依ルニアラスヤト想像セラルト述ヘタル趣ナリ

二、法王廳トノ間ニ正式ニ大公使ヲ交換セス何レカ一方的ニ使節ヲ派遣シ居ル國名及其ノ資格左ノ通り

(イ)法王廳ニ對シ一方的ニ正式外交使節ヲ送リ居ル國ハ英國(公使)「サンマリーノ」共和國(公使)米國(米大統領ノ使節ニシテ大使ノ資格ヲ有ス)ナルカ米國ハ最近「ティラード」大使ノ地位ハ其ノ儘トシ其ノ館員タル「チツトマン」ヲ新ニ米國ノ使節ニ任命シタル由ナリ(未タ何等公表ナシ)

(ロ) 法王廳ヨリ一方のニ正式外交使節(資格ニ區別ナシ)ヲ

送リ居ル諸國(「語不明」「エストニヤ」「ラトヴィア」)

「パラグアイ」「ルクセンブルグ」

ニ非ス

(付記)

「ローマ」法王廳ニ特派公使派遣

503

昭和17年2月19日

東郷外務大臣より  
在独國大島大使宛(電報)

日本の外交使節派遣を歓迎するとのバチカン

側回答について

付記 昭和十七年三月二十七日発表

バチカンへの特派公使派遣に関する外務當局談話

本省 2月19日後7時30分発

第一三七號(極祕)

貴電第二三一號末段ニ關シ

我方ニ於テ諸般ノ考慮ヨリ羅馬法王廳ニ使節ヲ派遣スルヲ  
適當ト認メ先般在京「マレラ」使節ヲ通シ法王廳側ノ意図  
ヲ確メタル處之ヲ歡迎スル旨ノ回答アリタルカ使節(差當

リ特派使節トス)ノ人選等未定ナリ

右以外何等御來示ノ如キ取極云々ノ事實ナク又「マレラ」

使節ノ地位ハ從來通リニシテ外交使節ノ性質ヲ有スルモノ

（三月二十七日外務當局談）

今般政府ハ「ローマ」法王廳トノ友好關係ヲ一層緊密ナラ  
シムル目的ヲ以テ原田公使ヲ「ヴァチカン」市ヘ特派スル  
ニ決定シタ。現下世界ノ情勢ニ鑑ミ且ツ大東亞共榮圈内ニ  
多數ノ「カトリック」教徒ヲ包含スル實情等ヨリ見テ、帝  
國ト法王廳トノ親善關係ガ増進セラレ聯絡ガ一層緊密化セ  
ラレルコトノ有意義ナルハ敢テ贅言ヲ要セザル所デアル。

504

昭和17年4月2日

東郷外務大臣より  
在伊国堀切大使宛(電報)

バチカンと重慶政権間の使節交換阻止方訓令

第一一〇號(極祕)

本省 4月2日後9時35分発

情報ニ依レハ最近法王廳ト重慶政華<sup>(ママ)</sup>トノ間ニ使節派遣ニ關  
スル交渉成立セル趣ナル處事實ナリトセハ右ハ本邦ノ公使

派遣決定直後ナルノミナラス歐洲ニ於テモ獨伊其他ノ多數

諸國カ南京政府ヲ承認シ居ル今日中立的立場ニ在ル法王廳

カ重慶政府ヲ支那政府トシテ認ムルハ面白カラサル次第ナ  
ルニ付既ニ時機ヲ失シ居ルヤモ知レサルモ貴任國政府トモ

協力ノ上之ヲ阻止スル様試ミラレタシ

~~~~~

505 昭和17年4月4日 在伊国堀切大臣(電報)

昭和17年4月4日

在伊国堀切大臣宛(電報)

バチカンと重慶政権との使節交換阻止について

バチカンと重慶政権との使節交換阻止につき

バチカンと重慶政権との使節交換阻止につき

ローマ 4月4日後発

本省 4月5日夜着

第二六一號

貴電第一一〇號ニ關シ

早速馬瀬ラシテ「ブルナス」ニ面會セシメ本件工作方依頼

セシメ置キタルカ本四日本使「チアノ」ト面會ノ際更ニ本

件ハ日本政府ノ甚々不快トスル所ニシテ然ルヘク伊太利政

府ヨリ法王廳側ヲ說得方希望スル旨述ヘタル處「チ」ハ

「バチカン」駐劄伊太利大使ヲシテ之カ阻止方出來得ル限

リ工作セシムヘキ旨答ヘタリ

506 昭和17年4月10日 在伊国堀切大臣(電報)

昭和17年4月10日

在伊国堀切大臣(電報)

重慶使節受入れに關するバチカン側事情について

重慶使節受入れに關するバチカン側事情について

ローマ 4月10日後発

本省 4月11日前着

第二六九號

往電第二六一號ニ關シ

法王廳ニ對シ重慶側使節派遣方ニ關スル交渉成立シ重慶側

ヨリ既ニ「アグレマン」ヲ要求シ居レリトノ情報アリタル

ヲ以テ十日馬瀬ラシテ「ブルナス」ニ面會セシメ先般伊太

利側ニ依頼セル本件阻止方ニ關スル交渉經過ヲ訊ネシメタ

ル處「ブ」ハ「マリオーネ」國務長官日下旅行中不在ノ爲

直ニ「バチカン」駐在伊太利大使ヲシテ國務次官ニ面會セ

シメ本件申入レシメタルカ國務次官ハ重慶政府ハ日本ヨリ

ノ使節派遣方申入以前既ニ使節交換方「バチカン」ニ交渉

シ居リタル經緯アリ曩ニ重慶側ヨリ「バチカン」特使重慶

ヘ派遣方要求シ來リタルモ之ヲ拒絕シ又重慶ヨリノ使節派

遭受諾モ種々事ヲ設ケテ遷延策ヲ講シ居タル次第ナルモ日

本ヨリノ使節派遣ヲ受諾セル今日無下ニ重慶ヨリノ使節派

遣ヲ拒否シ得サル立場ニナレリトテ苦衷ヲ述ヘ居タル趣ヲ

述ヘ又「マリオーネ」ハ今明日中ニハ歸來スヘキニ付更ニ

伊太利大使ヲシテ之ニ面會セシメ阻止方此ノ上トモ努力セ

シムヘク又假令使節派遣方ニ關シ交渉成立シタリトスルモ

「アグレマン」ニ關シ更ニ遷延策ヲ講スルコト可能ナルヤ

モ知レサル旨述ヘ居タル趣ナリ尙其ノ際「ブ」ハ私見トシ

テ法王廳ハ國家トハ謂ヒ條特殊ノ地位ニ在リ波蘭ノ如キ滅

亡國家ノ使節モ現存シ居リ伊太利政府トシテモ之ニ何等故

障ヲ申入レ得サル立場ニアル處「バチカン」ニ於テハ今般

日本トノ外交關係ニ極メテ満足シ居ルニ付大至急原田公使

ヲシテ着任セシムルコト本工作上最モ有效ナルヘキ旨述ヘ

居タル趣ナリ

507 昭和17年4月14日

在伊国堀切大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

バチカン國務卿に対し伊国側より重慶使節受

入れの見合せ方申入れについて

ローマ 4月14日後発  
本省 4月15日前着

## 第二七六號

往電第二六九號ニ關シ

十三日「ブルナス」ハ馬瀬ニ對シ「マリオーネ」國務長官

歸來セルニ依リ法王廳駐劄伊太利大使ヲシテ本件日本側希

望ヲ重ネテ申入レシメタル處「マ」ハ「バチカン」トシテ

ハ日本ヨリノ使節派遣ヲ受諾セル今日重慶ヨリノ使節派遣

ヲ拒否スル口實ヲ設クルコト甚々困難ナル立場ニアルモ出

來得ル限り之カ阻止方ニ努力スヘシト約シタル旨語レリ

尙「マ」ハ其ノ際假令之カ阻止シ得サリシトスルモ正式ノ

發表ハ之ヲ遷延セシムル等ノコトモ爲シ得ヘク又且下ノ處

「バチカン」内部ニハ重慶使節ヲ入ルル住居ナキ狀態ニモ

アリ當分ノ間事實上之カ實現ヲ阻止スルヤモ知レスト漏シ

居タル趣ナリ

佛へ轉電セリ



508 昭和17年4月14日 在伊国堀切大使より

東郷外務大臣宛(電報)

南京国民政府との関係等に鑑み重慶使節を受入れざるようバチカン側説得方意見具申

北京 4月17日後発

宣教師等保護の観点から重慶政権との使節交換を希望するバチカン側立場について

本省 4月17日夜着

ローマ 4月14日後発

本省 4月15日前着

第三七六號

伊發大臣宛電報第二七六號ニ關シ

往電第二七六號ニ關シ  
第一七七號

重慶使節ノ「バチカン」派遣問題ニ關シ「バチカン」筋ヨリノ情報ニ依レハ法王廳トシテハ今次日本トノ外交關係成立ヲ重視シ居リ此ノ際日本ノ感情ヲ害スルコトハ避ケタキ意嚮ナルモ滿洲國建國ニ際シ率先シテ之ニ使節ヲ送レルハ事實問題ヲ考慮セルニ依ルモノニシテ重慶政権支配下ニ在ル地域ノ宣教師「カトリック」教徒保護ノ爲寧ロ重慶トノ連絡ヲ希望シ居ル趣ナリ  
佛へ轉電セリ

509 昭和17年4月17日 在北京土田參事官より  
東郷外務大臣宛(電報)

南大、上海へ轉電セリ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

可トストノ趣ニテ更ニ說得ヲ試ムルコト如何カト存ス

ル要アルヘク法王廳トシテ「オークワード」ノ立場ニ立ツコトトナルヘキヲ以テ寧ロ重慶ヨリノ使節ヲ接受セサルヲ

1027

昭和17年5月3日 在伊国堀切大使より

東郷外務大臣宛(電報)

重慶使節のバチカン派遣阻止は困難との伊国  
側見通しについて

ローマ 5月3日前発  
本省 5月3日夜着

第三一二二號

原田公使ヨリ

本二日「バチカン」駐箚伊太利大使「ガリリア」ニ面談ノ際本使ヨリ今般「バチカン」ハ新ニ重慶ヨリ使節ヲ接受スルコトトナリ居ル旨聞キタルカ右「バチカン」側態度ハ我方ノ甚タ諒解ニ苦シム所ナリ右ハ折角「バチカン」側カ在來我方ニ示シタル好意的態度ヲ全ク無ニ歸スルモ同様ノ結果トナルヘキヲ以テ將來兩者ノ友好關係ノ爲ニモ之丈ケハ是非共思ヒ止マラシムル様幸ヒニ伊太利政府ノ協力ヲ得タシト述ヘタル處「ガ」大使ハ「バチカン」トシテハ從來共其ノ絶對中立ノ特殊地位ニ鑑ミ戰爭ノ經過中ニ於テ曲リナリニモ現存スル一國政府ヲ否認シ得サル立場ニアリ且又兩三年來重慶政權ノ本件要求ニ對シ「バチカン」側ハ非「キ

リスト」教國ノ代表者ヲ接受シ得ストノ建前ニテ終始之ヲ拒否シ來レルカ今回日本トノ公式關係設置ニ依リ其ノ立場ハ益々困難トナリ遂ニ本年三月末之ニ同意ヲ與フルノ餘儀ナキニ至レルモノニシテ今更右同意ヲ撤回スルコトハ難シト思考ス右事情ハ日本政府ニ於テモ之ヲ諒トセラル様篤ト說明シ置カレタク伊太利政府トシテハ日本側御意嚮ヲ能ク了解シ居ルニ付重慶政府ノ來任ヲ阻止シタキハ山々ナルカ「ラテラン」條約ノ關係モアリ或ハ不可能ナルヤモ知レサルモ少クトモ之ヲ遲延セシムル様極力盡力スヘキ旨ヲ述べタリ

尙其ノ際本件其ノ他ニ關シ專ラ法王廳側ト連絡ノ衝ニ當ル同大使館參事官ハ本使ニ對シ「バチカン」ニハ舊「ユーロスラビア」、波蘭、白耳義等ノ代表者モ殘存シ居ルカ法王廳ハ曩ニ「クロアチア」ヨリノ使節派遣方要求ヲ拒否シタル經緯アリ一度重慶ヨリノ使節接受セハ南京政府ヨリノ使節接受ハ不可能トナルヘキ旨ヲ述ヘ又法王廳側ハ重慶使節ノ接受ニハ同意シタルモ未タ重慶側ヨリ使節ノ「アグレマント」ヲ求メ來リ居ラサル模様ナル旨語リ居タリ

重慶使節派遣問題は中國の主権に關わる事項  
としてバチカン側へ慎重対応要請方訓令

本省 5月8日後8時50分発

第一五五號(至急)

貴電第三一二號ニ關シ

原田公使ヘ

國民政府ニ於テモ豫テ法王廳ニ使節派遣方希望シ居リ我方  
トシテモ現下ノ日支關係ニ鑑ミ出來得ル限り右國民政府側  
ノ希望ヲ達成セシメ遣り度キ考ヘナル處萬一法王廳カ重慶  
側ノ使節ヲ接受スルトキハ從來中立的立場ヲ維持シ來レル  
法王廳ハ南京ヨリノ代表者ヲモ接受スルヲ適當トスヘキ命<sup>ニ</sup>  
令ト認メラル

冒頭貴電ト共ニ北大、南大、上海へ轉電セリ

。。。。。。。。。

512 昭和17年5月12日

(在バチカン原田公使より  
東郷外務大臣宛(電報))

南京国民政府からの使節受入れは不可とする

バチカン側の立場について

バチカン 5月12日後発

本省 5月14日前着

第六號

伊宛貴電第一五五號ニ關シ

三 その他中立国との関係  
就テハ貴使ハ法王廳側ニ對シ問題ハ帝國ト重慶トニ對スル  
取扱振ニ存スルモノニ非シテ國民政府カ既ニ十數箇國ニ  
依リ承認セラレタル今日重慶側ノミヨリ外交使節ヲ接受ス  
ルハ對南京及重慶ノ關係ニ於テ其ノ一方ニ偏スル取扱ヲ爲  
スコトトナリ右ハ法王廳側ノ主張タヌ中立的態度ヲ維持ス

(ルカ)

本十二日國務卿ヲ往訪御訓令ノ趣旨ヲ申入レタル處「マ」

ル所以ニ非サル點ヲ御説明ノ上北大發本大臣宛電報第三七  
六號後段ノ趣旨ニ依リ此ノ上トモ本件實現阻止方御努力相  
成度已ムヲ得サル場合ニ於テモ重慶側使節ニハ蔣ノ個人的  
代表タルノ資格ヲ認ムルニ止メ(此ノ場合ニハ南京側ヨリ  
モ同様資格ノ代表接受方申入ルルコトトナルヘン)漸ク正  
式外交關係設定ヲ見タル此ノ際支那問題ニ關スル我方立場  
ヲ無視スル結果ヲ招來スルカ如キコトナキ様善處方御折衝  
相成度シ

バチカン 5月16日後発

本省 5月18日前着

第九號(至急)

往電第六號ニ關シ

ハ重慶ニ對シテハ其ノ要求ヲ拒否シ難ク大使接受ニ關シ同意ヲ與ヘ(尤モ「アグレマン」)ハ未タ要求シ來ラスタル次第ニシテ一方國民政府ヨリ使節ヲ接受スルコトハ同政府ノ事實的承認ヲ意味シ右ハ戰爭中成立セル新政府ハ承認セスト爲ス法王廳從來ノ建前上絶對不可能ナリ只現地ニ於ケル新事態ニ鑑ミ南京ニ對シテハ法王廳非公式代表者ヲ派遣シ日支當局トノ聯絡ヲ計ラシムルコトニ關シ目下考慮中ナルモ法王廳側トシテハ此ノ際之上ノ措置ニ出ツルコトハ到底不可能ナルヲ繰返シ聽カス右ニ對シ本使ヨリ我方立場ヲ縷々說明シタル上本件ニ關シテハ單ナル法律論ニ捉ハレルコトナク其ノ政治的結果ニ考慮ヲ加フルノ肝要ナルヲ力說シ本件ハ我方ニ於テ重要視シ居ル問題ナルニ付慎重熟考ヲ要スヘシト爲シ再會ヲ約シ辭去セリ不取敢

十六日「マリオーネ」國務卿ヲ往訪改メテ本件ニ關シ強ク再考ヲ促シタル處「マ」ハ此ノ際既ニ公知ノ事實トナリ居レル重慶ニ對スル同意ヲ撤回スルコトハ法王廳トシテハ其ノ面子問題ニ關シ特ニ其ノ道義的權威ヲ失墜スルコトトナリ右ハ到底忍ヒ得サルコトニ屬ス

幸ニ未タ「アグレマン」ヲ求メ來ラサルモ若シ右到達ノ際之カ回答ヲ遷延スルコト亦不可能ナルハ日本側ノ御了解ヲ得タク尙蔣介石個人的代表トシテ接受ノ儀ハ既ニ重慶ニ對シ大使接受ヲ承諾シタルヲ以テ變更ハ不可能ナルモ唯南京ニ對シ法王廳非公式代表者(外交代表ニアラサル)ヲ派遣スルニ對シ内々ノ含ミニテ非公式ノ南京代表者ヲ當地ニ迎フルコトハ差當リ困難ナカルヘシト述ヘタルニ依リ本使ヨリ繰返シ我方立場ニ關シ懇々說示シタルモ依然自説ヲ固持シ頑トシテ耳ヲ籍サス尙「マ」ハ約二箇月間重慶側ヨリ未タニ「アグレマン」ヲ求メサル理由ニ關シテハ何等知悉セス

513

昭和17年5月16日

(在バチカン原田公使より  
東郷外務大臣宛電報)

重慶使節受入れ撤回は困難なる立場につきバ  
チカン側再度説明について

重慶使節受入れ撤回は困難なる立場につきバ  
チカン側再度説明について

ト答へタリ

本件ニ關シテハ既ニ累次電報ノ通り法王廳側ニ於テ既ニ重慶側ニ對シ回答濟ナル以上今更右ヲ覆スコトハ略々時機ヲ失シタル感アリ至難ナル處當方ニ於テハ此ノ上トモ努力ヲ續クル所存ナルモ同時ニ如上ノ經緯モアルニ付伊發往電第三一三號通り伊政府側トモ協力シ少クトモ遷延策ニ依リ本件目的ノ達成ヲ圖ルコトモ一策カト存セラルニ付テハ當方ニ於ケル交渉ト併行シ我方ヨリ改メテ伊政府側ニ對シ右ニ協力方申入レラルコト致度ク尙本件ニ關シ其ノ他心得置クヘキコトト共ニ何分ノ儀御回示アリタシ

514

昭和17年5月27日

在バチカン原田公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

バチカンの対外関係及びその影響力利用のた  
めの方針について

バチカン 5月27日後発

本 省 5月29日前着

(<sup>1</sup>) 第一五號(館長符號扱)  
本使着任以來日猶淺クシテ未タ全般ノ情勢ヲ知悉スルノ遑

ナキモ今日迄法王廳及外交團トノ接觸ニ依リ得タル第一印  
象ヲ綜合セハ大要左ノ通り御参考迄

「バチカン」ノ性格カ世界各國ニ散在スル「カトリック」ニ對シテ有スル精神的勢力ヲ背景ト爲ス關係上「バチカン」トシテハ其ノ道義的權威ヲ維持スル爲ニモ現下ノ世界ノ情勢ニ於テ一方ノ陣陣營ニ與スルヲ得サル立場ニ在リト云フヘク特ニ戰爭勃發後ハ終始絕對公正ナル中立的地位ヲ堅持スルノ體裁ヲ整フル爲細心ノ注意ヲ拂ヒツツアリ其ノ結果「バチカン」ノ態度カ徒ニ現實ノ世界ノ情勢ニ順應セサル嫌アルハ否定シ得ヌ獨伊兩國大使ノ如キモ「バチカン」カ毫モ新事態ヲ認識セント努メス依然頑迷ナル態度ヲ持シ居ルハ困ツタモノナリト零シ居レリ二、「バチカン」ト獨トノ關係ハ同國內ニ於ケル宗教政策特ニ教育問題ニ關聯シ必シモ宜シカラス唯戰爭以來專ラ問題ノ遷延ヲ旨トシ目下稍々小康ヲ得居ル狀態ナルモ將來兩者ノ間ニハ幾多ノ問題ヲ包藏シ居ル様觀測セラル之ニ反シ伊トノ關係ハ寧ロ良好ニシテ右ハ伊カ對内政策上「ラテラン」條約ヲ忠實ニ遵守セムトスル態度ニ出テ居ルニ依ルモノト見ルヘキ處伊大使ハ法王廳初メ「バチ

カン」首脳部ハ殆ト伊太利人ナルニ拘ラス主義上ノ問題ニ關スル限り一步モ讓ラサルニハ伊政府モ手古摺ルコトアリト内話シ居リタルカ伊カ「バチカン」ニ對シ餘程氣兼シ居ルノ感ヲ禁シ得サルモノアリ

對蘇關係ニ關シテハ最近頻リニ世評ニ上リタル蘇聯ノ接近説ハ事實無根ノ如ク他方「バチカン」ノ反共態度ハ依然何等ノ變更ヲ見ス此ノ點ニ關シ思想宣傳上我方ニ於テハ慎重ナル注意ヲ拂ヒ居ルモ右ニ對スル特別ノ機關ノ設置ナク其ノ有スル情報モ戰時中通信困難ノ爲他ノ各種情報同様大シテ期待スル程ノコトナキカ如キ印象ヲ得タリ「カトリック」國(南米諸國ヲ含ム)ニ對スル「バチカン」カ根強キ精神的勢力ヲ有スルハ申迄モナキコトナルカ曩ニ南米ニ於テ獨政府ノ對「カトリック」態度カ痛ク反感ヲ買ヒ居ルニ依リ伊政府ヨリ法王廳ニ對シ南米ノ反樞軸感情緩和ニ盡力方依頼シタルニ對シ法王廳ハ斷然右ヲ斥ケタル事實モアリ(「ブルナス」内話旁々目下絶對中立ヲ標榜シ極メテ消極的態度ヲ持シ居ルニ鑑ミ果シテ如何ナル程度迄右勢力ヲ政治的ニ利用シ得ルヤハ甚々疑ヒナキヲ得ス又重慶代表接受問題ニ關シテモ米國內「カトリ

ツク」教徒ノ輿論カ「バチカン」側ニ對シ相當ノ影響ヲ與ヘ居ルモノノ如ク米國トノ關係ハ今後共注意ヲ要スヘシ

### 三、<sup>(3)</sup>

今次帝國トノ公式關係成立ニ關シ「バチカン」側カ非常ニ欣ヒ居ルコトハ着任以來各方面ニ於テ親シク體驗スル所ニシテ御信任狀捧呈ニ際シ法王聖下モ個人謁見ニ於テ親シク右ヲ繰返シ述ヘラレタル所ナルカ法王廳側ニ於テハ右ヲ現法王統下ニ於ケル劃期的事件ナリトシ相當大袈裟ニ取扱ヒ(特ニ式場ノ映寫ヲ行フ等)タルニ依リ各國側特ニ英米側ノ嫉妬ヲ買ヒ其ノ抗議スル所トナリタリトノ噂スラアリ然ルニ他方外交團方面ニテハ「バチカン」ナレハトテ特ニ變ツタ情報ノアリ様モナク今次日本トノ關係成立ニ依リ利益スルモノハ寧ロ「バチカン」ニシテ日本側ハ先方ヨリ種々ノ要求又ハ泣言ヲ聽ク立場ニ立ツニアラスヤト噂シ居ル趣ナリ

四、翻ツテ我方トシテハ此ノ際徒ニ目前ノ利害關係ニ囚ハルコトナク佛宛貴電第一五七號本使ニ對スル御訓令ノ通り須ク大所高所ヨリ我方ノ公正ナル態度ヲ先方ニ「インプレス」スルコトニ止ルコト最モ肝要ニシテ殊ニ東亞圈

### 三 その他中立国との関係

内ニ於ケル對「カトリツク」政策ヲ右ニ基クコトヲ現實ニ示スヘキハ言ヲ俟タサルヘク又此ノ際各方面ニ關スル先方ノ至當ナル要望ハ可能ナル範圍ニ於テハ成ルヘク聞キ屆ケ遣リ置ク等ハ將來「バチカン」ノ勢力ヲ我方ニ有利ニ利用スル上ニ最モ時宜ニ適セルモノト思考セラル

515

昭和17年6月5日

在バチカン原田公使より  
東郷外務大臣宛電報

#### 重慶使節へのアグレマン許与に關しバチカン

側よりの説明について

第二四號(緊急)  
往電第一七號ニ關シ

バチカン 6月5日後発  
本 省 6月7日夜着

本五日更ニ本件眞相ヲ質スヘク「マリオーネ」國務卿ヲ往訪シタル處「マ」ハ實ハ既ニ一昨日胡世澤ニ對シ「アグレマン」ヲ許與シタリ早速貴方ニ右當方ノ所存(一語脱)昨日ハ祭日ナリシ等ノ事情ノ爲延引セリト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ本件ニ關スル我方立場ハ屢次ニ亘ル說明ニ依リ良ク了

解セラレタルコトト信シ必スヤ何等カノ方法ヲ以テ善處アルモノト期待シ居リタルカスカル結果トナリシハ實ニ意外ニシテ右ハ我方ノ到底了解シ得サル所ナリト述ヘタル處「マ」ハ本件「アグレマン」ヲ拒否シ得サリシ理由ニ付釋明ニ努メ從來ノ議論ヲ繰返ン法王廳トシテハ日本ノ立場ハ了解スルモ屢述ノ通り全ク右ヨリ外ニ途ナカリシ旨ヲ述ヘ帝國政府ニ對シテハ「マレラ」使節ヲシテ其ノ間ノ事情ヲ釋明セシムヘキモ本使ヨリモ良ク説明アリタシト懇請シタリ右ニ對シ本使ヨリ日本側トシテハ既述ノ通り法王廳カ重慶使節ニ「アグレマン」ヲ許與セリトノ事實ノミニテ深刻ナル「シヨツク」ヲ受クヘキハ勿論ニシテ本邦與論ノ到底了解セサル所ナルカ事茲ニ至レル以上此ノ上ハ同人ノ着任ヲ出來得ル限り遷延セシムルノ外ナシト述ヘタルニ對シ「マ」ハ其ノ不可能ナルヲ答ヘタルヲ以テ本使ヨリ然ラハ本件發表ハ如何セラルル意嚮ナリヤ日本側輿論ニ對スル影響ヲ考慮シ右ハ充分慎重ナルヲ要スヘシト述ヘタル處「マ」ハ本件ハ法王廳側ヨリ發表セサルコトナリ居ルモ重慶側發表ハ之ヲ「コントロール」シ得スト答ヘタリ尙其ノ際「ガレリア」大使ハ實ハ自分モ今右ノ事實ヲ國務卿ヨリ聞

キ込ミタル所ナルカ法王廳側ニテハ英米側ノ壓迫甚シク遂ニ右ニ屈伏スルノ已ムナキニ至レリト洩シ居タリト内話シタリ右ニ對シ本使ヨリ此ノ上ハ胡ノ着任遷延方ニ關シ伊太利政府ノ協力ヲ得度ク出來得レハ同人ノ查證ヲ與ヘサル様工作アリタキ旨依頼ンタル處「ガ」ハ查證ノ拒否ハ「ラテン」條約ノ明文上困難ナルヘキモ伊政府トシテ出來得ル限リノ事ハ致シタシト述ヘ居タリ右不取敢

~~~~~

516

昭和17年6月11日

東郷外務大臣より  
在バチカン原田公使宛(電報)

重慶使節受入れに関する事情につき在本邦バ

チカソ使節より説明について

本省 6月11日後10時発

第一二號

貴電第二四號ニ關シ

九日「マレラ」使節西次官ヲ來訪法王廳ヨリノ訓令ニ依ル

趣ヲ以テ法王廳ノ政治ニ關與セサル建前ヨリ重慶使節ニ「アグレマン」ヲ與ヘサルヲ得サリシ事情ヲ縷々説明シタル上法王廳トシテハ當初伊太利政府ヲ通シ日本ヨリ使節派

遣ノ申出アリシ際ニ之ヲ歡迎スヘキ旨回答スルト同時ニ日本ノ使節ヲ受クルトキハ從來ノ經緯モアリ重慶ヨリノ使節ヲ拒否スルヲ得サル旨同政府ヲ通シ申述ヘ置キタル趣ナリト云ヘルニ對シ次官ヨリ日本ノ反對申出ニモ不拘法王廳カ重慶使節ニ「アグレマン」ヲ與ヘタルコトハ遺憾ニシテ折角法王廳ト關係ヲ開始セル我方ノ痛ク失望スル所ナリ又重慶側ハ之ヲ大イニ宣傳ニ利用スヘク日本側トシテハ迷惑ヲ蒙ルノミナリ併シ既ニ承認ヲ與ヘラレタル以上他ニ方法ナシトスレハ法王廳トシテハ國民政府ノ使節ヲモ承認シ「バランス」ヲ執ルヨリ外ナカルヘク又伊太利ヲ通シ重慶使節ヲ承認セサルヲ得サル旨回答セラレタリトノ點ニ關シテハ當方ハ當時何等ノ通報ニ接シ居ラス右通報アリシトセハ我方ノ使節派遣ニ關シテモ右ヲ考慮ノ上審議シタルナルヘク我方カ後ニ至リ本件苦情ヲ提起セル事情モ充分諒解セラル所ナルヘシ(先方モヨク諒解スト答ヘタリ)ト述ヘ以上ノ次第ヲ法王廳ニ電報方求メ置キタリ

尚此ノ點ニ關シ當時安東參事官ニ對シ伊太利側ヨリ重慶ヨリモ使節派遣ヲ申出居レル旨補足的ニ通告アリタルモ日本側ノ使節ヲ接受セハ重慶使節ヲモ接受セサルヲ得ストノ明

確ナル意思表示ハナカリシ趣ナリ

伊ニ轉報アリタシ

北大、南大、上海へ轉電セリ

517 昭和17年6月11日

東郷外務大臣より  
在伊國堀切大使宛(電報)

重慶使節派遣阻止のため通過査証を与えざる  
よう伊国政府へ依頼方訓令

本省 6月11日後9時30分発

第一八六號

「バチカン」發本大臣宛電報第二四號及第一八號ニ關シ

法王廳カ我方申入ニモ拘ラス胡世澤ニ對シ「アグレマン」

ヲ與ヘタルハ我方ノ極メテ遺憾トスル處ニシテ本件カ發表

セラレ胡ノ赴任ヲ見ル場合ニ於テハ曩ニ帝國ト法王廳ノ外

交關係樹立ニ依リ生シタル好影響ヲ減殺スルノミナラス法

王廳ハ重慶ヲ支那ニ於ケル唯一ノ正統政府トシテ認メタル

コトトナリ國民政府カ從來同政府治下二百萬ノ「カトリツ

ク」教徒ニ對シテ抱キ居リタル好感モ冷却スルノ虞ナシト

セス法王廳ノ立場ヨリ云フモ好マシカラサル結果ヲ生スヘ

キ處法王廳トシテ今更胡ノ「アグレマン」ヲ取消シ又其ノ  
赴任ヲ阻止スルコトハ困難ナル可キヲ以テ此ノ際考へ得ル

唯一ノ實際的方法ハ伊太利政府ト話合ノ上同政府ニ於テ胡

ニ對シ通過査證ヲ與ヘサル様取計フコトナリ依テ貴使ハ伊

太利政府ニ對シ右事情竝ニ原田公使宛往電第一二號末段ノ

次第等說明指摘ノ上國民政府ヲ支那ノ唯一ノ正統政府トシ

テ之ヲ育成強化スルコトハ帝國不動ノ國策タルノミナラス

日伊ノ共同戦爭完遂ノタメニモ是非共必要ナルニ付右方針

ニ直接抵觸スル胡ノ赴任ハ是非共之ヲ阻止サレ度キ旨申入

アリ度ク尙先方カ「ラテン」<sup>(ラタニ)</sup>條約ノ明文ニ言及セル際ハ同

條約第十二條第一項ハ伊太利ト敵對關係ニ在ル重慶政權ノ

代表ノ如キモノニ迄特權ヲ許與スルノ趣旨ニハ非サルモノ

ト思考セラレル旨ヲ以テ應酬セラレタシ

冒頭電報ト共ニ北大、南大、上海へ轉電セリ

「バチカン」へ轉報アリタシ

518 昭和17年6月15日

東郷外務大臣より  
在伊國堀切大使宛(電報)

重慶使節への通行査証発給遷延策に関する伊

## 国側との協議について

ローマ 6月15日後発  
本省 6月17日前着

### 第三九六號(極祕)

貴電第一八六號並ニ原田公使宛貴電第一二號ニ關シ

重慶使節阻止方ノ御趣旨ハ萬々諒トスルモ御承知ノ通り「バチカン」自體國際政局ノ外ニ超然タルヲ建前トスルト共ニ伊政府ハ「バチカン」ニ對シ氣兼スル關係ニ鑑ミ此ノ上躍起トナリ伊政府ニ對シ本件交渉ヲ爲スコトハ效果少キノミナラス大國日本トシテ不體裁ト存セラレ本使ノ取ラサル所ナルカ折角ノ御來示ナルニ付十五日加瀬ヲシテ「ブルナス」局長ニ對シ御趣旨ニ依リ篤ト申入レシメタリ同局長ハ實ハ先般本件ニ關シ貴方ヨリ御話アリタル際(往電第三八一號御參照)直ニ在「ベルン」伊國公使ニ對シ暫ク查證ノ發給ヲ見合ス様訓令シタルカ精々一箇月位ニテ夫レヨリ長クハ引延シ得スト認メタリ未タ查證ノ請求ナキモ之ヲ拒否又ハ無期限ニ遷延スルコトハ甚タ六ヶシ伊政府トシテハ「ラテラン」條約ニ依リ敵國タルト否トヲ問ハス「バチカン」駐劄使臣ニ對シ請求アリ次第通過查證ヲ出ササルヲ

得サル關係ニアリ重慶使節ノ「バチカン」入リニ反對セラルル日本政府ノ立場ハ良ク諒解スル所ナルカ他方伊政府力査證ヲ與ヘサル場合ニ伊政府ト「バチカン」トノ間ニ機微ナル問題ノ生スルコトモ御考へ願度シ素ヨリ伊政府トシテ出來ル丈ケノコトハ試ムヘキモ自ラ限度アリト述ヘタリ依テ加瀬ハ「ラ」條約ノ解約問題ニ這入ルコトハ適當ナラスト認メ支那カ日伊共同戰爭ノ重要ナル一場面ナルコト、御互ヒニ南京國民政府ヲ唯一ノ正當政府トシ育成スルコト、支那問題解決從テ共同戰爭最後ノ勝利ヘノ一有力手段ナルコト、重慶ノ壽命長カラサルコト等ヲ強調シ此ノ際伊政府ニ於テ政治的考慮ヨリ胡世澤ニ對スル査證發給ヲ無期限遷延方要望スルモノナル旨繰返シタル處同局長ハ甚夕望ミ薄ナルモ日本政府折角ノ御申出ナルニ付「ムツソリーニ」首相(「チアノ」旅行不在)ニ委細報告シ何分ノ回答ヲ約シタル趣ナリ

~~~~~

519 昭和17年6月20日

在伊國  
東鄉外務大臣宛(電報)

重慶使節のバチカン派遣につき秋頃までの遷

延が限度とする伊国側回答

ローマ 6月20日後発

本省 6月21日前着

第四〇八號

往電第三九六號ニ關シ

十九日「ブルナス」ハ加瀬ニ對シ日本政府ノ御申出ニ付テハ「ムツソリーニ」首相ニ委細報告セリ依テ右ニ對スル伊國政府ノ回答トシテ申上ルトテ述ヘタル所左ノ通り

「ラテラン」條約ハ「ム」首相ノ重要ナル一事業ニシテ從テ本條約ニ正面ヨリ抵觸スルカ如キ措置ハ伊トシテ避ケ度ク若シ斯カル措置ヲ强行セハ「バチカン」トノ關係ニ甚々不愉快ナル事態發生ノ惧アリ伊政府トシテハ日本政府折角ノ御申出ナレハ左ノ二方法ニ依リ或ル程度御希望ニ副フ様致度ク即チ

(一)何トカ理屈ヲ附ケ重慶使節伊國通過查證發給ヲ遷延スルコト但シ右ニハ限度アリ

(二)「バチカン」駐在伊太利大使ノ報告ニ依レハ「バチカン」市内ハ住宅難ニテ差當リ重慶使節ヲ入ルヘキ家ナキ趣ナル處恐ラク近々「バチカン」側ヨリ右使節ノ住宅整フル

迄羅馬市ニ居住スルコトヲ許容方申出スヘキモ其ノ際ハ重慶ハ伊國ト敵對關係ニアルヲ理由トシテ羅馬市ノミナラス伊國內ニ滯在ヲ許容セサル意嚮ナリ  
右ノ方法ニ依リ伊側トシテハ何トカ秋頃迄重慶使節ノ「バチカン」市入リヲ實際上阻止シ得ヘント思考シ居レリ云々尙同局長ハ數日前南京外交部長ヨリ伊大使ニ對シ同様重慶使節伊太利領土ノ通過阻止方申入アリ其ノ際在北京「アボストリツク、デレゲイト」ノ南京移駐ニ付話合アリタルカ非公式ノモノトスレハ實現ノ可能性アルヘント言ヘルカ加瀬ハ右ハ我方訓令ノ範圍外ニ屬ストテ立入り論議ハ避ケ我方ノ差當リ重視スルハ重慶使節ノ「バチカン」入り阻止ニアリト述ヘ置キタル趣ナリ

520 昭和17年7月2日

東鄉外務大臣より  
在中國重光大使宛(電報)

南京国民政府非公式代表のバチカン派遣について

本省 7月2日後6時30分発

第四〇六號

伊發本大臣宛電報第四〇八號ニ關シ

重慶使節ノ「バチカン」赴任ヲ窮極ニ於テ阻止シ得ストセ

ハ此ノ際法王廳ヲシテ國民政府ヨリノ非公式代表例ヘハ

汪主席ノ個人的代表ノ如シ國民政府ヨリ法王廳ニ對シ正式

外交使節ヲ派遣スルコトハ法王廳トシテハ一國ヨリ一箇ノ  
外交使節ヲ接受スルコトトナリ受諾困難ナルヘン)接受方

同意セシメ(國民政府側在歐使臣中ニハ右代表トシテ適當

ノモノナキヤニ認メラルル處新ニ派遣スルコトモ亦差當リ

實行不可能ナリ)以テ重慶側使節派遣ノ效果ヲ減殺セシム

ルコト一案ト思考セラルル處右ノ場合我方ヨリ持出スヘキ

國民政府側代表ノ氏名同政府ト御連絡ノ上回電アリ度シ

北大、上海へ轉電セリ

編　注

昭和十七年十月、バチカンは重慶使節に対するアグレ

マン許与を正式に発表し、翌十八年一月二十六日に同

使節はバチカンに着任した。

大東亞省ニ轉報セリ

「ヴァティカン」ニ口添方依頼シ來レルヲ以テ不取敢外交

上機微ナルヲ以テ慎重研究ノ要アル旨ヲ述へ置キタルカ本  
件ニ關スル貴方關與ノ程度茲本件ノ實狀及貴方判斷御回電  
アリ度

「ヴァティカン」、西ニ轉電セリ

大東亞省ニ轉報セリ

521 昭和18年12月29日 重光外務大臣より  
在フィリピン村田大使宛(電報)

陸軍省よりフィリピン内カトリック教会大司教の

交代に關しバチカンへの口添え方依頼について

本省 12月29日後8時30分發

第五八號

陸軍省ヨリ比島政府側ニ於テハ民心把握及對内啓發上「カ  
トリック」教ヲ利用シ度處現在ノ大司教(「アイレ」人)ハ

協力不充分ナルヲ以テ比島人ニ代ヘ度意嚮ナルカ更ニ一般

ニ「カトリック」布教師ノ間ニ於テ比島人ト西班牙人トノ  
折合面白カラス比島人カ押付ケラルル傾向アリ之カ是正ヲ

圖リ度所存ノ趣(右ハ現地軍側及貴館ニ於テモ同意見ノ由)  
ヲ以テ當方ノ意見ヲ照會越スト共ニ同意ナラハ當方ヨリ

マニ許与を正式に發表し、翌十八年一月二十六日に同

使節はバチカンに着任した。

「ヴァティカン」ニ口添方依頼シ來レルヲ以テ不取敢外交

上機微ナルヲ以テ慎重研究ノ要アル旨ヲ述へ置キタルカ本  
件ニ關スル貴方關與ノ程度茲本件ノ實狀及貴方判斷御回電  
アリ度

「ヴァティカン」、西ニ轉電セリ

大東亞省ニ轉報セリ

「ヴァティカン」、西ニ轉電セリ

大東亞省ニ轉報セリ

昭和19年2月8日

在フィリピン村田大使より  
重光外務大臣宛(電報)

フィリピン内カトリック教会大司教へのフイ  
リピン人就任に關し意見具申

マニラ 2月8日前11時00分発

本省 2月8日後8時15分着

第一三號

客年貴電第五八號並ニ往電第一一號ニ關シ

(一) 本件ハ直接ニハ軍ノ内面指導ヲ動機トスルモ比律賓人自

身カ西班牙時代ヨリ其ノ實現ヲ希望シ來レル處ナリ

(二) 即チ西班牙時代ニ於ケル比律賓人牧師ノ地位ハ極メテ低級ナリシ上教會以外ニ於ケル西班牙人僧侶ノ横暴ニ關スル一般比律賓人ノ反感ト相俟チ僧侶ヲ「フイリピナイズ」スヘシトノ要望起レリ

(三) 米國時代ニ入リテモ教會ハ依然トシテ外國人タル米國人ノ支配下ニアリ之ヲ快シトセサル「アグリパイ」教父ノ一派ハ千九百二年「カソリック」教會ヨリ分離シテ「フイリツピン、インデペンドント、チャーチ」ヲ樹立セリ現在ニ於テモ「ビショップ」以上ノ地位ノ半數ハ米國人又ハ歐洲人ニ依リ占メラレ當國ニ於ケル最高ノ地位タル馬尼刺大司教ハ愛蘭國籍ヲ有スル「オドハーイ」ニシテ副教師一〇四名アリ我方及「ラウレル」政權ニ對シ非協力的態度ヲ持スル者モ少カラス比律賓人僧侶ハ米國時代ヨリ今日ニ至ル迄「オドハーイ」ヲ反比律賓的ナリトシ千九百二十九年連名ニテ同人ヲ非難セル覺書ヲ法王廳ニ提出セルコトアリ

(四) 教會ハ精神的方面ニ於テ國民ノ日常生活ニ浸透シ居ルノミナラス二、三ノ有力ナル銀行並ニ不動産ニモ投資シ居リ教會財產ハ九千萬「ペソ」ヲ超ヘ其ノ運營如何ハ一般民衆ニモ影響ヲ及ホスヘク殊ニ教會所有ノ土地ニ於ケル小作爭議ハ米國時代屢々重大ナル問題トナレリ

(五) 本件ハ「パリシユ」ヲ管轄スル僧侶ヲ目標トスルモノニシテ「アウガスチン」「フランシスカン」「ドミニカン」「レコレクト」「ジエスイ」派等ノ僧團(「オーダー」)ニ屬スル外國人僧侶(大部分ハ西班牙人)ニハ關係ナキモ之等ノ「オーダー」モ土地其ノ他ノ財產ヲ所有シ或ハ學校ヲ經營シ居ルニ依リ間接ノ影響ハ免ル能ハサルヘク從テ

(六) 本件ノ實現ニ伴フ比律賓人ノ勢力ノ伸張ハ喜ハサルヘシ  
ノ關係ヲ圓滑ニシ「ラウレル」政權ノ強化ニ資スル處大  
ナルヘシ而モ「カトリツク」教自體ニハ何等不利ヲ及ホ  
ササルノミナラス前記「アグリパイ」派ヨリ復歸スル者  
モアルモノト認メラルモ國際關係機微ナル際ニテモア  
リ御詮議ノ上然ルヘク御取計相煩度

尙參考資料郵送ス

大東亞大臣へ轉報アリタシ

。。。。。。。。。

523 昭和19年3月28日

重光外務大臣より  
在フィリピン村田大使宛(電報)

フィリピン人の大司教任用に対するバチカン

側の難色とその背景について

本省 3月28日後5時30分発

第三一號

在「ヴァチカン」原田公使發本大臣宛電報第八六號轉電  
往電第八四號ニ關シ

「マ」國務卿ハ「ラウレル」大統領ノ親書ニ關シテハ未タ

在京法王使節ヨリ報告ニ接シ居ラサル模様ニテ十三日會見  
ノ際モ右ニ對スル反響ヲ打診スルヲ得サリシカ其ノ節本使  
ヨリ本件ハ比島人ノ永年宿望セル「カトリツク」僧侶ノ比  
島人化ヲ請願セルモノナリト承知スル旨ヲ述ヘタルニ對シ  
「マ」ハ比島「カトリツク」ノ現狀ニ關シテハ何分ニモ法  
王使節カ電信ノ發受ヲ許サレ居ラス何等報告ニ接シ居ラサ  
ルタメ今俄ニ判断ヲ下シ得サル次第ナルカ本件ハ未タ其ノ  
時機ニ非サルヘシト述ヘタリ

「カトリツク」教職者ノ自國人化ハ本邦ニ於テモ既ニ數年  
前ヨリ實行濟ニシテ本件ハ比島人トシテハ誠ニ當然ノ欲求  
ナルヘク我方トシテモ之カ成就ノ爲折角斡旋ノ勞ヲ取ルコ  
ト然可キヤニ存セラル處先年日本天主教會同教區ニ全部邦  
人ヲ任命シタル際モ法王廳側トシテハ殆ト未曾有ノコトト  
テ當初相當難色アリタルカ如キモ當時在京「マレラ」法王  
使節カ我國內情勢ヲ察知シ右斷行ヲ主張シタルニ依リ漸ク  
實現シタル經緯アリ

(右ニ關シテ本邦事情ニ通セル當館囑託「カンドウ」氏ヲ  
通シ折角啓發ニ努力中ナリ)

又比律賓布教狀況ニ關シテハ法王廳方面ノ見解ヲ夫レト無

ク探ラシメ置キタルニ比律賓人宗教生活ハ其ノ内容カ果シ

テ充實シ居ルヤ否ヤニ關シ多少ノ不安ヲ感シ居ルカ如ク其

ノ原因ハ恐ラク主トシテ内外人教職者ノ不足ニ在ルヘシト

ノ印象ヲ有シ居ル模様ナルカ何レニセヨ法王廳トシテハ本

件措置ニ當リテハ一ニ二十餘年間馬尼刺ニ在勤シテ現地事

情ニ通曉セル法王使節ノ報告ニ俟ツヘキモノト思考セラル

ルニ付テハ此ノ際同使節ヲシテ積極的ニ本件ヲ提議セシム

ル様仕向クルコト最モ肝要事ナリト思考セラル處同使節

ハ目下通信ノ自由ヲ有セサルヲ以テ可然在京法王使節ト連

絡セシムルノ要アルヘシ尙法王廳ノ比律賓獨立承認ニ關シ

テハ累電ノ通リナル處比島ニ於ケル「カトリック」ノ地位

ニモ鑑ミ法王廳ニ於テハ戰後「コンコルド」締結ヲ考慮シ

居ルモノノ如ク若シ其ノ連ヒトモナラハ本件ノ如キハ其ノ

（運カ）  
際當然解決セラルヘキ問題ナリト思考セラルニ付比島政

府側ニ對シテハ上掲趣旨ニテ御指導相成ルコト然可シト存

セラル

~~~~~

## 連合國軍ローマ占領後における在バチカン日 本使節館に対する米軍側圧迫について

バチカン 6月26日 発

本省 11月4日前0時40分着

### 第一號

一、羅馬占領後當館ニ對スル米軍ノ不當措置ニ關シテハ隨時

在京法王使節ヲ通シ御通報申上ケル様法王廳側ニ依頼シ

置キタル處要ハ米側ニ於テ「ラテラン」條約ヲ認メサル

ニアリ從テ在羅馬大公使館ノ中立性乃至ハ治外法權ニ關

シ何等ノ保障ヲ期待シ得サルコトトナリ特ニ我方ニ對ス

ル米軍ノ態度乃至感情ハ八日當官邸ニ侵入セル米兵ノ言

動ニ依ルモ最モ警戒ヲ要スルモノト認メラレタルニ依リ

萬一ヲ慮リ六日及七日ノ兩日ニ亘リ暗號書及當館所有ノ

祕密書類ハ一切燒却スル措置ヲ執レリ右ト同時ニ祕密通

信機モ八日遂ニ破壞ノ上燒却スルノ曰ムナキニ至レル事

情御諒察アリタシ

二、將來ノ連絡方法ニ關シテハ法王廳電信局ハ占領軍ニ依リ

樞軸國外交官ノ暗號ニ依ル發信ヲ禁止セラレタル由ナル

モ暗號ノ受信ハ支障無ク行ハレ居リ又右カ不可能トナレ

ル場合ニモ法王廳傳書使ニ託シ在葡在西帝國公使館ヲ通シ暗號電報ヲ發受シ得ル見込ナリ右ノ他「ヴァチカン」ニ落着キタル上ニテ何分ノ連絡方法ヲ考慮スル所存ナリ

~~~~~

昭和19年6月26日

在バチカン原田公使より  
重光外務大臣宛(電報)

### 日本使節館のバチカン市内移転の経緯について

バチカン 6月26日 発

本省 11月4日後4時35分着

#### 第三號(極祕)

一、五日羅馬落城スルヤ館員ハ豫テ打合セ通り直ニ官邸ニ參集セシメタルカ米軍ハ翌日朝ヨリ嚴重ニ外部トノ交通ヲ遮斷シ當初ハ食料品水等ノ搬入ヲストラ禁止シ來訪客及通勤中ノ使用人計七名ノ歸宅ヲサヘ許ササリシニ依リ法王廳ヲ通シ右不當措置ニ對シ强硬抗議セリ

二、同時ニ法王廳トノ自由ナル連絡ヲ回復スル様嚴重要求シ累次交渉ノ結果十日ヨリ日ニ一回占領軍ノ監視付ニテ當館自動車ニ依リ法王廳ト連絡方話合成立セリ

三、八日國務次官ヨリ法王廳トシテハ「ラテラン」條約ノ建

四、八日朝附近ニ駐屯中ノ米兵二名ニ回亘リ官邸領域内ニ侵入シタルカ折柄居合セタル本使自ラ適當說諭シ退去セシメタルニ午後一將校ヲ伴ヒ三度侵入シ來リ威嚇的態度ヲ以テ總ユル暴言ヲ吐ケル事件起リタルニ依リ法王廳ニ右事實ヲ通報シ占領軍ニ對シ嚴重抗議方依頼スルト共ニ將來ニ對スル完全ナル安全保障ヲ要求セリ(右内容ハ在京法王使節ヲ通シ通報方依頼済)

五、右様事情ニテ本使トシテノ使命達成不可能トナレルノミナラス館員ノ安全サヘ保障シ得サル狀態トナレルニ依リ九日法王廳ニ對シ當館ノ任務達成ノ觀點上「ヴァチカン」市内ニ移轉ヲ要求スルノ已ム無キニ至レル旨通報セルカ

前ヲ堅持シ占領軍ニ對シ外交官ノ羅馬市在住及法王廳トノ自由ナル連絡許容ヲ要求シ居ル關係モアリ法王廳ヨリ日本側ノ「ヴァチカン」入りヲ慾憤シ得サル立場ニ在ルモ若シ右ヲ希望セラルル時ハ早速左様取計フ用意アリ又「ヴァチカン」内ノ生活ハ相當窮屈ナレハ或ハ瑞西、西班牙等中立國ニ移轉ノ上該地ニ在ル法王使節ト連絡ヲ執ル方法モアルヘシト爲シ至急右何分ノ決定ヲ求ムル旨申出タリ

### 三 その他中立国との関係

右當方要求提出後十日午後ニ至リ占領軍ハ敵國外交官ニ對シ七十二時間以内ニ「ヴァチカン」内ニ移轉スヘキ旨命令ヲ發セリ(其ノ後右時間的制限ハ撤回セラレタルニ依リ本使等ハ目下「ヴァチカン」内ニ在ル敵國外交官ノ退去ヲ待チ移轉シ得ル様萬端ノ準備ヲ了セリ)

六、右移轉問題ト關聯シ當初法王廳側ハ住居ノ關係上館長及館員一名ノミニ限り度キ旨希望越セルカ交渉ノ結果大小ノ「アパート」三ヲ提供セシムルコトニ談合成立シ一先ツ館員ト共ニ移轉シ得ルコトトナレリ

七、官邸内ニ閉チ込メラレタル來訪客及使用人ノ釋放ニ關シテハ種々交渉ノ結果漸ク二十一日ニ至リ法王廳代表者二名立會ヒ憲兵隊ニテ簡單ナル訊問ヲ受ケ夫々無事歸宅セリ

八、茲ニ特記スヘキハ樞軸國外交官中左ノ如キ不當ナル待遇ヲ受ケタルハ我方ノミナルコトニシテ獨大使館ニ於テハ去ル五日參事官及一等書記官カ米軍ノ手ニ逮捕セラレ未タニ解放セラレサル等ノ事件アルモ同大使館ハ交通遮斷ヲ受ケ居ラス又外出ノ際「エスコート」ヲ要セサル趣ナリ

526

昭和19年11月30日

在バチカン原田公使より  
重光外務大臣宛(電報)

連合國軍によるローマ占領後の伊国情勢及び

バチカンの動向について

バチカン 11月30日 重光外務大臣宛(電報)  
本省 3月11日後5時25分着

第五一號

現下ノ伊ハ國內焦土ト化シ政治經濟機構盡ク未曾有ノ混亂ヲ現出シ居リ「ボノミ」政權ハ所謂左右六政黨ノ寄合世帶ニシテ全ク施政ノ能力ヲ缺キ今ヤ各地方トノ連絡無ク僅カニ「ボノミ」ノ個人的聲望ト米英ノ壓力ニ依リ命脈ヲ繫キ居ル狀態ナル處各政黨間ノ内輪揉メ絶ヘス「ファツショ」ノ息掛カカリシ者(軍部及外交官ヲ含ム)ノ肅清問題等ヲ繞リ左右兩派ノ相剋爆發シ去ル十一月二十五日「ボノミ」ノ投出トナリタルカ一時的ノ彌縫ハ兎モ角終極ノ收拾ハ當分ノ間殆ト不可能ナリト見ラレ居レリ

六、其ノ後事態多少改善セラレタルモ猶種々機微ナル關係ア  
ルニモ鑑ミ本件取扱ニ慎重ヲ期セラレ度シ爲念

一、「ヴァチカン」ノ活動ハ其ノ後モ專ラ人道的事業ニ局限セラレ居リ曩ニ電報ノ通り米英ノ對獨態度緩和方ニ付法王ヨリ「チャーチル」ニ又ハ先般來伊中ナリシ「スペルマン」紐育大司教ヲ通シ「ローズベルト」ニ夫々懲懲シタル形跡アルモ果シテ如何ナル效果アリヤ極メテ疑ハシク唯當地獨側ニ於テハ右ニ關スル法王ノ盡力ニ注意ヲ拂ヒ居ル様見受ケラル其ノ後法王廳ニ於テハ將來ノ和平問題ニ關シ米國「カトリック」司教會議ノ決議等ヲ通シ飽迄公正ナルヘキヲ主張セシメ居リ又所謂新國際平和機關案ニ對シテハ未タ公式ニ其ノ意見ヲ發表セサルモ同案ノ如キハ徒ニ戰爭ヲ助長スルモノト爲シ絶對ニ反對ナリト認メラル

尙法王廳ニテハ曩ニ逝去セル國務卿ノ後任ヲ任命セス法王ハ(即位前九年間國務卿タリ)大小ノ政務ヲ親裁シ傍日々敵軍將兵(其ノ數既ニ四十萬ニ達ス)ノ引見ヲ缺カサス多忙ヲ極メツツアリ

二、法王廳ト各國トノ關係ヲ通觀スルニ

(イ)先ツ占領軍トノ關係ハ占領軍力軍事上ノ理由ヲ口實ニ種々法王廳ノ獨立性ヲ無視スルカ如キ行動ニ出テタル

(ロ)米トノ關係ハ曩ニ大統領選舉對策上米側ヨリ頻リニ法王廳ノ關心ヲ買フ如キ態度ニ出テタルハ事實ニシテ法王廳カ目下重大關心ヲ有スル伊國救濟問題ヲ繞リ兩者ノ接觸多ク在「ヴァチカン」米國大使ノ如キ右ニ專念シツツアル狀態ナリ

(ハ)之ニ反シ英トノ關係ハ必スシモ然ラス「スチムソン」始メ米側要人ノ羅馬入リニ際シ法王廳訪問ヲ怠ラサルニ反シ英側ハ國王、「スマツ」將軍、「イーデン」等來羅ニ拘ラス其ノコトナク同國新聞界ニ於テモ法王廳ノ對獨態度等ニ關シ露骨ナル非難ノ聲ヲ聞クコト屢々ナリ

### 三 その他中立国との関係

態度ニハ何等變更ナク特ニ波蘭問題ニ關聯シ法王廳ハ露骨ニ反蘇態度ヲ表明シ居リ

(イ) 對獨關係ハ「ヴァチカン」人ノ大部分カ伊國人ナルト

獨逸國內ニ於ケル對「カトリック」處置ニ影響セラレ

自ラ良好ナルヲ得サルモ表面努メテ公平ヲ裝ヒ居レリ

(ロ) 佛ハ曩ニ「ド、ゴール」ノ法王訪問後當地ニ非公式代

表者ヲ派遣シ來タリ法王廳トシテハ事實上ノ關係ヲ設定シ居ルカ曩ニ「ヴシェイ」ニ在勤セル在巴里法王外交使節ノ地位及巴里大司教始メ各地司教中「ヴシェイ」

政府ト關係アリタリト認メラル者ノ地位ニ關シ種々機微ナル關係ヲ生シ居レリ

(ト) 法王廳ノ御膝下ナル伊太利ニ於テスラ動モスレハ反宗教的ナル左翼ノ勢力増大スルニ付「カトリック」ノ將來ハ相當困難ヲ想像スヘク歐洲各國ニ於ケル同一傾向ト共ニ右ハ法王廳トシテ重大關心事ナリ

三、法王廳ト伊トノ關係ニ關シテハ去ル九月一日法王カ伊國ノ窮迫ヲ訴ヘ米英ニ對シ其ノ救濟ノ急務ヲ強調シタル際戰時中窮迫セルハ單ニ伊ノミニ限ラサルニ何故世界的宗教ノ酋長タル法王カ特ニ一國ヲ指摘スルヤトノ批評スル

モノアリタルカ右ハ兎モ角トシテ伊現下ノ精神的物質的危機ハ法王廳ノ最モ深ク憂慮シ居ル所ナリ此ノ種情報ニ關シテハ豫テ法王廳側ヨリ敵側軍隊ニ關スルコト及伊國内事情ノ報告ヲ差控ヘラレ度キ旨懇請アリ又敵側ハ最近右ヲ條件トシテ法王廳傳書使ノ派出及利用ヲ承認シタル次第ナル處右法王廳側申出ニ對シテハ一應公約ヲ與ヘ居ル關係モアリ當方トシテハ極メテ機微ナル立場ニアルヲ以テ申ス迄モナキコト乍ラ今後ノコトモアリ取扱上特別ノ御配慮ヲ煩度占領軍ハ最近ニ及ヒ表向監督權ヲ解消シタリト爲スモ政府ハ依然トシテ各國委員ヨリナル諮詢委員會ノ監督下ニ置カレ各省ニハ佐官級米英監督官配屬シ細部ニ亘ル干渉ヲ爲シ居ル實狀ニシテ當地ニ於ケル占領軍ノ諸施設ハ大體五箇年ノ契約ヲ以テ徵用セラレ居ル事實ニ徵スルモ現狀ハ恐ラク相當長期間存續スルモノト想像セラレ早クモ伊人間ニ怨嗟ノ聲昂マリ居レリ然ルニ左翼ヲ形成スル貴族層其ノ方面ニ於テハ此ノ際米英カ伊ヨリ手ヲ引カハ後ハ左翼ノ獨壇上トナル危險アリト爲シ寧ロ米英カ(英カ暗ニ王政ヲ支持シ居ルハ事實ナリ)出來ル丈長ク踏止マルコトヲ要望シ居ル奇現象ヲ呈シ居レ

リ各政黨中最モ積極的ナルハ社會黨ニシテ夙ニ共產黨ト  
提携シテ左翼陣營ヲ形成シ政府ヲ鞭撻シ大衆ノ獲得ニ努  
メ居ルカ共產黨ハ表面極メテ穩健ナル態度ヲ裝ヒ居ルモ  
キ人心ノ收攬ニ努メ居リ今迄ノ處佛自兩國內ニ於ケル同  
黨勢力ニ比スレハ未タ微力ナルモ將來北伊地方ヲ加ヘタ  
ル後ノ勢力ハ注意ニ值スヘク法王廳方面ノ頭痛ノ種トナ  
リ居ルカ他方共產黨ハ加特力黨ノ懷柔ニ努メ居リ中央黨  
ヲ以テ任スル基督教民主黨ノ如キモ左右兩派ニ分レ左翼  
ノ勢力日ニ增大シツツアリ之ニ反シ右翼ハ何レモ兎角旗  
幟鮮明ヲ缺キ一般民衆ニ「アツピール」セス極メテ不振  
ニシテ殆ト拱手傍観ノ感アリ而シテ茲ニ注目スヘキハ伊  
將來ノ政體問題ナルカ現存政黨中王政ヲ支持スル者ハ皆  
無ニシテ新聞モ二十數種アル内王政ヲ支持スルモノハ僅  
カニ一ツアルノミニテ壓倒的ニ共和政支持ニ傾キ居ル現  
狀ナルカ法王廳方面ニ於テハ政治的訓練ヲ缺ケル伊國民  
ニハ共和政ハ危險ナリト爲シ陰ニ王政ヲ支持シ居ル處最  
近左翼ノ進出顯著ナルニ及ヒ各方面ニ於テモ共和政ノ將  
來ニ危惧ノ念ヲ抱クモノ多キヲ加ヘ來リ近ク純然タル王

黨現出ノ可能性アリ政體問題ハ戰後憲法會議ニ依リ決定  
セラルコトトナリ居ルモ王政派ハ寧ロ人民投票ニ依ル  
ヲ有利ナリト爲シ居レリ

次ニ法王廳ノ最大關心事ハ生活難ニ起因スル人心ノ頽廢  
ナリ右ノ如キ國內ノ混亂ト政府ノ無爲無策ヲ前ニ國民ハ  
物價騰貴ト失業ニ喘キ（舊「ファツシヨ」黨員ノ肅正モ  
手傳ヒ大羅馬ノミニテ三十萬ノ失業者アリト謂ハル）前  
途ニ何等ノ光明ヲ認メ得ス益々左翼暗躍ノ溫床トナリツ  
ツアル處特ニ悲慘ナルハ恒產ナキ中流階級乃至知識層ニ  
シテ彼等ハ目下全ク貧窮ノドン底ニ陥リ次々ニ家財道具  
ヲ賣拂ヒ唯寢臺ヲ剩スノミナリト謂フカ如キ狀態ニ瀕シ  
退職將軍カ玩具製造ノ内職ヲ始ムルカ如キニ至レリ

右ニ對シ占領軍ハ殆ト對策ヲ講セス電氣瓦斯ノ配給依然  
僅少ニシテ近郊ヨリノ物資移入ニサヘ助力ヲ與ヘス切符  
制度ハ全然其ノ實ヲ失ヒ市民ハ日常必需品ノ購入ニスラ  
戦前ノ二、三十倍以上ニ及フ闇取引ニ依ルノ他道無ク  
（砂糖一「キロ」七百「バター」一「キロ」八百食酒一  
「リットル」五百鹽一「キロ」三百肉類一「キロ」四百  
卵一個四〇「リラ」等）生キンカ爲ニハ何事ヲモ辭セサ

### 三 その他中立国との関係

ル有様ニシテ市中ハ強盜横行ノ爲午後八時以後ハ步行者殆ト皆無ニテ街頭ニハ避難民ノ子弟カ到ル處ニ兵士ノ靴磨キヨ始メ又良家ノ子女迄竊カニ春ヲ鬻クニ到ル等社會風紀衛生問題ハ極メテ寒心スヘキ狀態ニ立チ至リ他面労働者ハ闇取引ニ依ル徒食人アリ眞面目ナル勞働ヲ嫌フ風潮ヲ生シ各種不正取引ニ依ル成金連ハ公然大散財ヲ試ムル等市民生活ノ混亂ハ言語ニ絶スルモノアリ占領當時市民ノ熱狂ヲ以テ迎ヘラレタル米英軍ハ當時僅カ許リノ手土產ヲ持參シテ好意ヲ示シ宣傳上盛ニ市民救濟ノ空手形ヲ發行シタルカ其ノ後日ヲ經ルニ隨ヒ一向ニ其ノ實現ヲ見サルノミナラス食料問題ハ獨占領當時ヨリ遙ニ悪化シ市民ノ生活ハ益々窮屈ヲ告ケ之ニ加フルニ米兵ハ規律ナク其ノ亂行ハ全ク御話トナラス晝間ヨリ泥醉シテ街頭ニ醜態ヲ曝露スルコト絶ヘス甚タシキニ至リテハ多數ノ米人脱走兵カ「ギヤング」ヲ組織シテ羅馬ヲ初メ國內隨所ニ強盜強姦ヲ勵クニ至リ又千數百萬ノ多額ニ及フ偽造軍票モ亦彼等ノ所業ナリト謂ハルルニ及ヒ伊國民ノ間ニモ漸ク眼ヲ醒マスモノ無キニ非サルカ當國民持前ノ事大思想ト反獨感情ノ然ラシムル所力何等反撥力ノ認ムヘキ

(以下特ニ取扱ヒ注意)

四、豫テ米軍ニ從軍中ノ日本人第二世ハ當初布哇出身者約二?

モノナク唯此ノ間ニ處シ蘇聯大使館宣傳部ハ婦人ヲ含ム約六十名ノ部員ヲ擁シ映畫講演等ニ依リ巧ミナル宣傳ニ努メ(王政問題等ニハ容喙セス)一般ノ蘇聯ニ對スル從來ノ恐怖心ヲ拂拭シ同情ヲ獲得スルニ成功シ居ル等ハ法王廳方面ノ關心ヲ益々深ムルノミナリ

次ニ伊ノ對日宣戰問題ニ關スル新聞論評ハ追電ノ通リナルカ上述ノ如キ社會狀態ニテハ今更戰爭テモアルマシク對獨參戰スラ甚々人氣無ク國民ハ一向ニ關心ヲ示シ居ラス親米英のナル右翼ノ一部ノミ迎合的ニ之ニ贊同シ居ル程度ニテ基督教民主黨モ之ニ加ハリ居ルモ左翼方面ハ寧ロ曰和見のニテ輿論ニ問フノ要アリト爲シ居レリ要スルニ米英ニ對スル氣兼ネ及將來ニ對スル利害打算上名目的ニ參戰ノ形式ヲ採ル可能性アルノミト見ラルヘシ然レトモ過去十年ニ亘ル日伊側親善ノ結果一般ノ國民間ニ於ケル對日好感ハ必ラスシモ絶滅シ居ラス現ニ羅馬大學ニ於ケル日本歴史講座ノ聽講生ハ例年ヨリモ增加セリトハ同擔任教授ノ内話セル處ナリ

千名伊戰線ニ參加シ隨所ニ於テ難局ニ廻サレ苦戰ヲ重ネ  
「カツシノ」戰線ニ於テハ其ノ約半數ヲ失ヒタル趣ナル  
カ兎モ角勇敢ニ戰ヒ米軍機關紙ハ屢々宣傳的ニ其ノ功ヲ  
特筆稱讚シ居ル處其ノ後約四千ノ二世「グライダー」部

隊到着伊ニ於テ訓練ヲ了ヘタル後南佛ニ向ヒ目下獨佛國  
境ノ戰鬪ニ參加中ナリトノ情報アリ尤モ二世ハ太平洋作  
戦ニハ絶對ニ使用セサル方針ナリト言ハル又米軍當局ハ  
當地ニ日本事務所ナルモノヲ設ケ日本人ノ舊住宅商社又  
ハ滿洲國公使館ヨリ押收セルツマラサル書類ノ整理ヲ行  
ハシメ居ル趣ナリ

五、當方面米軍ノ移動ニ關シ米軍機關紙其ノ他ノ情報ヲ綜合  
スルニ曩ニ米第五軍ニ屬セル第三、第三六及第四五師ハ  
其ノ後佛國戰線ニ廻サレ且下米第七軍ニ屬シ第一及第九  
步兵師團ハ在佛米第一軍ニ屬シ同シク獨佛國境ニ在リ現  
在在伊米第五軍ニ屬スル師團ハ第三四、第八五、第八六  
第八七各師團第一裝甲師團第八二落卜拿師團第九二黑人  
師團第四四二步兵聯隊第二世第百大隊ナル趣ナリ

六、最後ニ當方昨年七月「ヴァチカン」移轉後羅馬市内ヘノ  
外出ハ占領軍特別ノ許可ヲ要シ其ノ手續種々面倒ニモア

527 昭和19年12月29日

在バチカン原田公使より  
重光外務大臣宛(電報)

### 新國際機構構想等につきローマ法王と意見交換について

換について

バチカン 12月29日後4時00分発  
本省 1月3日後5時10分着

第六〇號

往電第五九號謁見ノ際法王ヨリ戰時多端ノ折柄 天皇陛下  
始メ皇室ノ御繁榮ト帝國ノ隆盛ヲ祈ル旨ヲ述ヘラレタルニ  
對シ本使ヨリ帝國政府ハ豫テ法王廳カ世界各地ニ抑留中ノ  
我同胞ニ對シ示サレタル好意ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表スル  
モノナル旨ヲ述ヘ次テ本使ヨリ往電第五八號法王「クリス  
マス」演說ニ言及シ法王カ新國際機關ノ根本原理ヲ表示セ  
ラレタルハ多大ノ興味ヲ以テ傾聽セルカ從來敵國側ノ發表  
セル所謂新機構ナルモノハ右理想ニ背馳スルモ甚タシク舊

### 三 その他中立国との関係

國際聯盟ハ多大ノ缺陷ヲ包藏シ居タルニ拘ラス右ニ比スレハ遙カニ勝レリト認メラレタルニアラスヤ而カモ將來戰爭ノ慘禍ヲ繰返ヘササラントセハ最モ重要ナルハ先ス今次戰爭ノ原因カ奈邊ニアリシヤヲ探究スルコトナリト思考ス本大戰前幾多ノ不正アリタルハ御承知ノ通ニシテ大東亞ニ戰爭勃發シタルハ深刻ナル原因存シタル次第ナリ然カルニ敵側ノ爲政者達ハ右ニ思ヲ致ササルノミナラス今ヤ全ク之ヲ忘却セルノ感アリ帝國トシテハ先ツ戰爭ニ勝ツコトニ依ツテ彼等ノ反省ヲ促カシ將來ニ對スル敎訓ヲ與フルコトヲ要シ其ノ信念益々深カムルモノナリト述ヘタル處法王ハ將來ノ平和力飽迄正義ニ基カサルヘカラサルハ自分力屢次ノ演説ノ通り特ニ一般ノ注意ヲ喚起スルニ努メタル點ナリト答へ次ニ本使ヨリ太平洋戰爭ハ愈々熾烈化シ相當長期ニ亘ルモノト認メラル處茲ニ本使ノ憂慮シ居ルハ此ノ戰爭力將來人種戰爭乃至ハ宗教戰爭ノ體様ヲ帶フルニ至ルコトナキヤノ點ニシテ(右ニ對シ法王ハ本戰爭ハ絕對ニ然ラサル旨ヲ述フ)英米側ニ於テ既ニ其ノ片鱗ヲ窺ハシムル宣傳ヲナシ居ルモノアルハ慨嘆スヘキコトナリ

落ニシテ人類ノ將來ニ憂フヘキ禍根ヲ殘スモノナリト認メラレルニ付此ノ點ニ關シテハ法王廳トシテ最モ深甚ナル警戒ヲ怠ラサルコトヲ希望スト述ヘ置キタリ

尙本電ハ法王トノ謁見ニ關聯シ特ニ打電方例外的ナ許可ヲ取付ケタルモノナルニ付左様御承知アリタク當方面一般情勢ニ關シテハ十一月下旬法王廳傳書使ニ托送シ在葡萄牙公使ヨリ打電方取計ヒ置キタル往電第五一號及第五六號依リ御承知アリタシ

尙將來在葡公使ヲ通シ同一經路ニ依ル電報ハ別ニ特番號ニ附スルコトス

~~~~~